

# 超高压と低温が生んだ奇跡

## 日本の「国石」ヒスイ

吸い込まれるような深い緑の宝石ヒスイ。その名は青や緑に輝く羽を持つ。「翡翠(カワセミ)」に由来するとされる。日本では縄文時代から勾玉(まがたま)などの装飾品として珍重され、人々の繁栄と幸福の願いが込められてきた。

日本の国石に指定されたのは2016年のことだ。ヒスイと呼ばれる石には、希少で高価な硬玉(こうぎょく)と、より産出量の多い軟玉(なんぎょく)がある。見た目は似ているが、硬さや成分のほか成り立ちも全く異なる別の鉱物で、国石は「硬玉」の方だ。

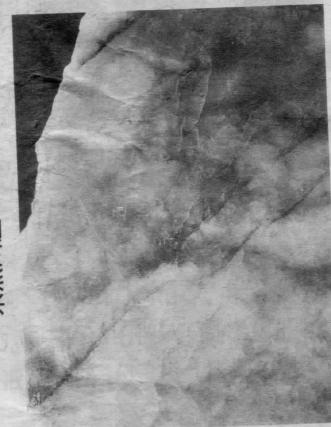
硬玉は、地球表層のプレートが別のプレートの下に沈み込む「沈

み込み帯」で生まれる。約1万気圧の超高压ながら、200~300度と地質学的に低温の状態が数億年続くというごく限られた環境が、硬玉の故郷だ。複数のプレートがひしめき合う日本列島は、この奇跡の石を育む絶好の条件を備えている。

新潟県糸魚川市は古くからヒスイの里として知られ、「古事記」にも登場する。大国主命(おおくにぬしのみこと)が奴奈川姫(ぬながわひめ)に求婚する物語。この女神、伝承ではヒスイを用いた祭祀(さいし)で国を治めていたといふ。

世界有数の硬玉産地である糸魚川市は、09年に日本で初めてユネ

**長谷川怜恵**(はせがわ・れいえ)  
1978年、群馬県生まれ。大学・大学院で地質学を専攻し、建設コンサルティング会社の八代エンジニアリング(東京都台東区)で公共インフラ整備事業のリスク評価に従事。幼少期から「石」にこだわり、「石オタク」の名でテレビなどに出演、SNSを通じて発信に取り組んでいる。



糸魚川産の硬玉

足元の石  
地球を愉(う)しそう



⑩

隔週連載